

やく お薬立ちmemo



正しく知って備える

— インフルエンザ治療薬の選び方と使い方 —

インフルエンザは、高熱や関節の痛み、強い倦怠感を引き起こすウイルス感染症です。

毎年冬に流行し、特に高齢者や子どもでは重症化することもあります。早めの受診と正しい治療が、回復への第一歩です。

薬剤師の立場から、インフルエンザ治療薬の種類と特徴を詳しくご紹介します。



やく お薬立ちmemo



現在、日本で使用されているインフルエンザ治療薬は大きく2つのタイプに分けられます。

1つ目は「ノイラミニダーゼ阻害薬」。ウイルスが感染した細胞から外に出るのを防ぎ、体内での拡散を抑える薬です。

オセルタミビル(タミフル^R)

最もよく使われる内服薬で、1日2回 5日間服用します。カプセルのほか、子ども向けにドライシロップもあります。

ザナミビル(リレンザ^R)

吸入薬で、1日2回 5日間使用します。消化器への負担が少ないため、吐き気のある方にも使いやすいです。



やく お薬立ちmemo



ラニナミビル(イナビル^R)

1回の吸入で治療が完結します。忙しい方や服薬管理が難しい場合にも向いています。

ペラミビル(ラピアクタ^R)

点滴で投与する薬で、飲み薬や吸入が難しい重症例や高齢者に使われます。1回または数回の投与で済みます。

2つ目は、より新しい「キャップ依存性エンドヌクレアーゼ阻害薬」。ウイルスが体内で増える仕組みそのものを阻害する薬です。

バロキサビル(ゾフルーザ^R)

1回の内服で効果が期待できます。ただし、耐性ウイルスが出やすいという報告もあり、年齢や重症度を考慮して使い分けられています。

やく お薬立ちmemo




これらの薬はいずれも、発症から48時間以内に使用を始めることが非常に重要です。時間が経つとウイルスが増えてしまい、薬の効果が十分に発揮されません。「熱が出て1日様子を見よう」と考えるうちに受診が遅れることも多いので、早めの医療機関受診をおすすめします。

また、どの薬を選ぶかは「年齢」「症状の重さ」「服薬のしやすさ」「副作用の有無」などによって異なります。例えば、吐き気がある方は吸入薬が適していることもありますし、吸入が難しい小児や高齢者には内服薬や点滴薬が選ばれることが多いです。



やく お薬立ちmemo



薬の力だけに頼るのではなく、十分な休養と水分補給も回復の鍵です。抗ウイルス薬はウイルスを「抑える」薬であり、最終的にウイルスを排除するのは自分の免疫力です。また、発熱が続く場合や呼吸が苦しい場合は、肺炎などの合併症の可能性もあるため、早めに再受診しましょう。

そして何より大切なのは予防です。ワクチン接種、手洗い、うがい、マスク着用を続けることで感染を防ぐことができます。もし感染しても、正しい知識と早い対応で、重症化を防ぐことができます。薬剤師は皆さんの健康を支える身近なパートナー。気になることがあれば、どうぞお気軽にご相談ください。

